

1. 討論もあつた。
(大橋洋平)

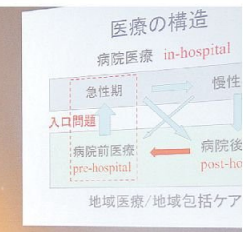
救急と在宅医療連携を

超高齢化テーマに講演会

岡山大

超高齢化時代の地域医療の在り方をテーマにした講演会（岡山大疫学・衛生学教室、御津医師会など主催）が9日、岡山市北区鹿田町の岡山大Jホールであり、湘南メディケアグループ（神奈川県）の山本五十年理事長が、救急と在宅医療の連携強化を呼び掛けた。

山本理事長は、救命救急医として第一線で約30年以上活躍した後、2009年に在宅療養を支援する同グループを開設した。山本理事長は、その狙いについて「超高齢社会の進展に伴い、急性期病院の病床確保はより困難になる。救急医療の維持には、在宅医療の普及が鍵と



山本理事長は、その

した講演会

や訪問看護師らが判断する「在宅トリアージ」の導入などを訴えた。医療や福祉、消防関係者ら約100人が聴講。出席者によるグル

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。